

第6学年社会科学学習指導案

日時 令和3年5月19日

対象 第6学年1組28名

授業者 N.N.

1. 単元名 日本の歴史

2. 小単元名 国づくりへの歩み

3. 小単元の目標

狩猟・採集や農耕の生活、古墳、国の形成に関する考え方に関心をもち、豊かな自然の中で狩猟や採集の生活が営まれていたこと、各地に支配者が出現し、やがて大和朝廷による国土の統一がされていたことが分かるようにする。

4. 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①人々の生活の様子、遺跡や遺物などについて、遺跡や地図、年表などで調べる活動を通して、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による統一の様子を理解している。	①人々の生活の様子、遺跡や遺物などに着目して、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による統一の様子について考え、表現している。	①狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による統一の様子について、予想や学習計画を立てて主体的に学習問題を追究・解決しようとしている。
②教科書や資料集を使って集めた情報を整理して、白地図や年表、ノートなどにまとめムラからクニへと変化したことを理解している。	②狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による統一の様子をもとに生活や社会の変化と技術や文化の伝承とを関連付けて考え、適切に表現している。	②学習したことをもとに、縄文時代、弥生時代、自分が住むならどちらがよいかということ、それぞれの時代の衣食住の観点から考えようとしている。

5. 小単元の指導計画（7時間扱い）

時	○学習活動				◇支援・手だて ◆【評価】
	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現	
1	縄文時代と弥生時代の生活の様子を比べよう。				◇人が何をしているのか、建物や道具などに目を向けられるよう促す。 ◆縄文時代と弥
	①縄文時代と弥生時代では、どんな生活をしているのだろう。	②縄文時代と弥生時代の想像図を見て、それぞれの時代の生活の様子を見つけ	③見つけた生活の様子をロイロノートに書き留める。		

		る。			生時代の生活の様子を主体的に見つけようとしている。【主①】
2 (本時)	縄文時代と弥生時代、どちらの時代で生活をしたいか考えよう。				◇衣食住の観点を提示し、生活の仕方を見つけられるようにする。 ◆縄文時代と弥生時代の人々の生活の様子について考え、表現している。【思①】
	①縄文時代と弥生時代、どちらの時代で生活をしたいか考える。	②縄文時代と弥生時代の想像図や資料を基に、それぞれの時代の生活の仕方やよさを見つける。	③それぞれの時代で見つけた生活の仕方やよさを比べる。	④どちらの時代で生活をしたいかを決め、理由とともにロイロノートに書き表す。	
3	弥生時代の後期には、生活の様子はどう変化したのかを調べよう。				◇農具や土器、食事の資料から農耕の技術が上がったり生活が豊かになったことに気付くことができるよう促す。 ◆米づくりがさかんになり、人々の生活が豊かになったことを理解している。 【知①】
	①弥生時代の後期、生活の様子はどう変化したのか。	②米づくりの想像図や遺跡、出土したものの資料などから調べる。	③弥生時代初期と比べて、変化したことを考える。	④米づくりがさかんになったことや争いが起きようになったことをロイロノートにまとめる。	
4	弥生時代の後期、なぜ争いが起こったのかを調べよう。				◇堀や柵、首の無い人骨などの写真から争いが起こったことに気付かせる。 ◆生活と社会の変化を関連付
	①弥生時代の後期、なぜ争いが起こったのか。	②食べ物や道具などについての資料から調べる。	③調べた情報から争いの原因を見出す。	④争いが起こった原因についてロイロノートにまとめる。	

					けて考え、表現している。 【思②】
5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 弥生時代後期の生活についてまとめよう。 </div> ①縄文時代と弥生時代、どちらの時代で生活をしたいかもう一度考える。 ②今までの資料をもとに特に弥生時代後期の生活について調べる。 ③縄文時代と弥生時代（後期まで）の生活や社会を比べる。 ④衣食住や生活や社会の変化の観点でどちらの時代に住みたいかをポスターにまとめる。				◇衣食住の観点や社会の変化についてそれぞれの時代を比べられるようにする。 ◆集めた情報を整理して、ロイロノートにまとめている。【知②】 ◆衣食住の観点から考えようとしている。【主②】
6	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> なぜ、巨大な古墳が作られたのか調べよう。 </div> ①多くの巨大な古墳を誰がどのようにして作ったのか。 ②巨大古墳や分布図、出土品などの資料を基に調べる。 ③朝廷や朝廷と豪族との関係、渡来人について考える。 ④分かったことをロイロノートにまとめる。				◇古墳や出土品の位置関係を意識して考えられるよう促す。 ◆古墳、大和朝廷による統一の様子を理解している。【知①】
7	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 縄文時代から古墳時代についてまとめよう。 </div> ①縄文時代から古墳時代までどのような変化があったのか。 ②今までの資料やまとめたものを基に調べる。 ③暮らしの様子や人々の関係について整理する。 ④分かったことを年表にまとめる。				◇人々の暮らしや関係の変化に着目させる。 ◆集めた情報を整理して年表にまとめている。【知②】

6. 研究主題について

【研究主題】

授業における学習過程の研究

～シンキング・サイクルの活用による「見方・考え方」の習得～

<目指す児童像>

自ら情報を整理・分析し、適した方法でまとめ・表現ができる児童

(1) シンキング・サイクルの捉え方

「課題の設定」

単元指導計画に合わせて教師が提示する資料から、時代の生活の様子を大まかに捉える。そして、自分なら縄文時代と弥生時代のどちらの時代で生活したいかを考える課題を教師が意図的に設定することで、児童がすすんで、それぞれの時代の特徴について調べていくことができると考えた。また、弥生後期の資料を提示することで、争いが起きたことを資料から読み取り、その争いが起きた原因や、争いから生まれた物などについても児童が興味をもって調べていくことが想定できる。

「情報の収集」

インターネットや本で調べて情報を集めることだけでなく、それぞれが集めた情報をグループやクラス全体で情報を共有することも、情報収集として大切な役割をなすと考えた。

「整理・分析」

児童にとって、自分たちが集めた情報を整理・分析することは難しい活動である。そこで、話し合いのポイントを絞ることで、児童が情報を整理しやすくなる。教師が、全体発表の場で、情報のまとめ方の見本を示す。教師がグループの話し合いに入り、助言しながら整理・分析させていくなどの手だてをとり、実践していくことが大切だと考えた。

「まとめ・表現」

他の児童により伝わりやすい「まとめ・表現」ができることを目指し、伝える相手や内容によって適したまとめ方をできるように指導をしていく。「まとめ・表現」の方法を考えることは、最初は難しい児童が多いことが想定できるので、本単元では年表で整理する方法を教師から提示する。最終的には、いくつかの方法から児童が適した「まとめ・表現」を選択できるようになることが目標である。

(2) 児童の実態

第五学年までの学習で、子ども達は、身近な地域から市区町村へ、都道府県から国土全体や世界へと学習領域を広げながら身近な地域や国土に展開する人々の暮らしと社会のしくみについて調べ、考えてきている。

第六学年では、時間軸を遡りながら、こうした人々の暮らしや社会の仕組みの歴史的な背景を探っていくという問題意識を大切に扱いながら、社会科学習の連続性と発展性に配慮していくようにしたい。

本学年は、歴史の学習に興味を示している児童が多い。その多くが、「歴史が好きだから。」「歴史上の人物に興味があるから。」という理由であった。これは、図書室や教室に歴史上の人物に関する伝記が多数あり、実際に読んだことがある児童も多く、人物についての知識だけがある状態だと考えられる。歴史の学習を通して、その人物が歴史上の出来事や他の人物とどのように関わっているのかについて着目して考えることで、児童が元々持っている知識（点）同士がつながっていくことが期待できる。一方、社会の学習に苦手意識を持っている児童は「内容が難しいから。」と理由をあげている。これは、社会的な見方・考え方を働かせて整理・分析をすることができず、知識同士のつながりを捉えられていないために、「内容が複雑で難しい。」と感じていると考えられる。児童の中で孤立した知識として終わってしまわないように、整理・分析をする際の視点を絞って提示したり、問いを工夫したりすることで、質の高い知識（点同士のつながりが太い状態）の定着を目指していく。

シンキング・サイクルについてのアンケートによると、情報収集を得意としている児童は72%と多い一方で、整理・分析とまとめ・表現を苦手としている児童は55%と、半数以上の児童が課題を感じていることが分かる。まとめ・表現では、整理・分析で用いた視点をもとに、それぞれの知識のつながりについて自分の言葉で表現できるようにしていくことで、学びを自分の言葉で表現できる児童の育成を目指す。

（3）教科の「見方・考え方」

小学校社会科における「社会的事象の見方・考え方」について、学習指導要領解説社会編には

位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して（視点）、社会的な事象を捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること（方法）

と示されている。

また、小学校社会科において考えられる「視点」の例として、中央教育審議会答申（平成28年12月）には以下のように示されている。

○位置や空間的な広がりの視点

地理的位置、分布、地形、環境、気候、範囲、地域、構成、自然条件、社会的条件など

○時期や時間の経過の視点

時代、起源、由来、背景、変化、発展、継承、向上、計画、持続可能性など

○事象や人々の相互関係の視点

工夫、努力、願い、つながり、関わり、協力、連携、対策、役割、影響、多様性と共生（共に生きる）など

また、小学校社会科における「社会的な考え方」について、学習指導要領解説社会編には以下のように示されている。

問いを設定して、社会的な事象について調べて、その様子や現状などを捉えることである。また、どのような違いや共通点があるかなどと、比較・分類したり総合したり、どのような役割を果たしているかなど、地域の人々や国民の生活と関連付けたりする方法で、考えたり選択・判断したりすることなどである。

(4) 単元について

学習指導要領との関連

本単元は、学習指導要領の次の内容を受けて設定した。

(2) ア

(ア) 狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を手掛かりに、むらからくにへ変化したことを理解すること。その際、神話・伝承を手掛かりに、国の形成に関する考え方などに関心をもつこと。

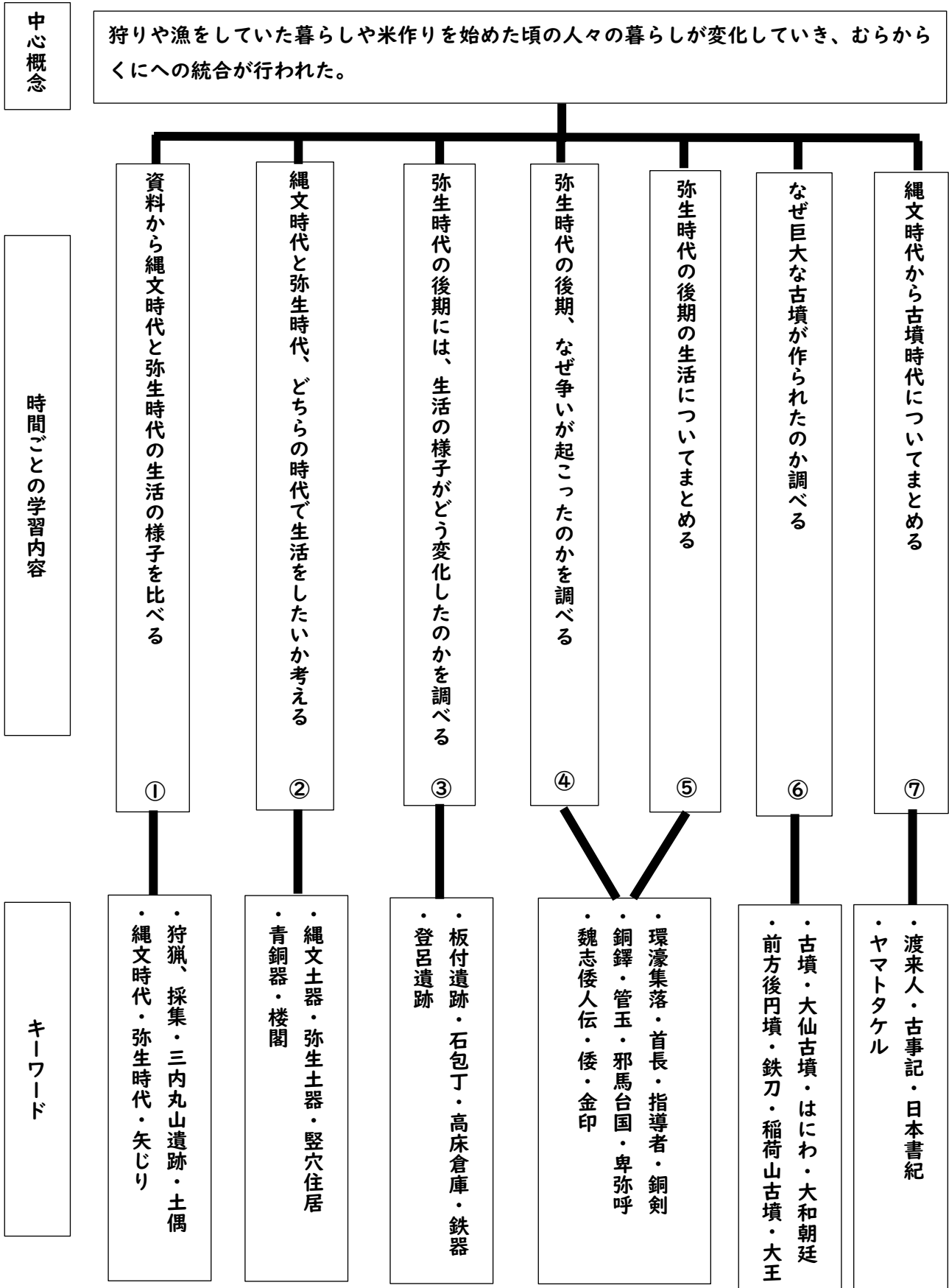
教材について

本単元では、縄文時代のむらから弥生時代のくにへの変遷をとらえ、米づくりの広まりに伴い、各地に豪族や王が出現し、大和朝廷による国土の統一につながったことに気付けるようにする。また、本単元は、第六学年から始まる歴史学習における初めての学習なので、児童が歴史への興味や関心、学び方の見通しをもって歴史学習に臨めるようにしたいと考えた。

第一時で提示する縄文時代と弥生時代前期の生活の想像図では、衣食住に着目して昔の人々の暮らしについて考えられるようにする。具体的に、どのような生活をしていたのか、世の中の様子はどのように変わったのかについて考えさせることで、米づくりの広まりにより、食を共にする人々の結びつきが強くなっていったことに気付かせる。また、第五学年の米づくりの学習をもとにして、人々が協力しあうことで、より効率よく食料を確保できるようになったという弥生時代の特徴を捉えられるようにする。そして、次時で弥生時代後期の生活の想像図を提示することで、地域ごとの地形や気候の違いにより収穫量の差が生まれ、食料をめぐる争いが起きるようになったことに気づかせる。

縄文時代、弥生時代前期、弥生時代後期の各時代の特徴を比較する必然性がある学習問題を設定することで、児童自身が主体的に学習問題を解決していけるようにした。

(5) 教材構造図



(6) 手だて

①問いの構成の工夫

学習問題についての予想をした際に、「～ではないだろうか？」などの児童の疑問につながっていくことを意図して学習問題を設定する。そして、そこで出てきた疑問を児童が調べていく活動につなげていく。

②資料提示の工夫

タブレット端末を活用して、インターネットの情報を基に調べ学習を行う。しかし、検索の内容が多岐に渡り、情報過多になることが想定できるので検索サイトはあらかじめ教師が指定する。また、学習内容の本を教室におき、調べ学習にも使用できるようにする。

資料を提示する際には、その資料から読み取らせたい「視点」について意識しながら、提示の順番や資料の加工を行う。

③対話的な学習活動の工夫

掲示した資料で「視点」を明確にしながら、話し合い活動をさせる。異なる「視点」で交流をすることによって、児童に自然と比較したり関連付けたりする思考力が付くと考えられる。

本時の学習（2／7時間）

（1）本時の目標

縄文時代と弥生時代の人々の生活の様子について考えたことを表現する。（思考・判断・表現）

（2）授業の観点

教科の視点

- ①縄文時代と弥生時代の想像図やその他の資料の提示の仕方やタイミングは適切だったか。
- ②教師が提示した課題は、見方・考え方を働かせることに役立っていたか。

シンキング・サイクルの視点

「縄文時代と弥生時代、どちらの時代で生活をしたいか考えよう」という学習課題を設定することが、児童自らがそれぞれの時代の生活についての情報を収集、比較、整理し、自分の考えを表現することに有効であったか。

（3）本時の展開

	○学習活動	◇指導・支援 評価【観点】（方法）
導 入	○前時までの学習を振り返る。 ○本時のめあてを確認する。	◇縄文時代と弥生時代の想像図を見て気付いたことを出させる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">縄文時代と弥生時代、どちらの時代で生活をしたいか考えよう。</div> ○本時の流れを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto; text-align: center;">課題設定</div>	◇本時の流れ ①2つの時代の生活の仕方を具体的に調べる。（衣食住の観点） ②2つの時代の生活の仕方を比較し、どちらの時代に住みたいかを決める。 ③どちらの時代にしたのかを理由とともにロイロノートに表す。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">展開</p>	<p>○縄文時代と弥生時代の生活の仕方について調べる。(衣食住の観点)</p> <p><縄文時代></p> <ul style="list-style-type: none"> ・狩りや漁、採集 ・縄文土器 ・大型竪穴住居、大型掘立柱建物 ・盛り土 <p><弥生時代></p> <ul style="list-style-type: none"> ・米づくり(田おこし、収穫、脱穀) ・青銅器 ・立派な建物、楼閣、井戸、水路 ・道具や布の製作 ・祭り <p>○どちらの時代で生活をしたいか考える。</p>	<p>◇教科書や資料集の想像図等の資料を提示する。</p> <p>◇衣食住の観点で調べていくよう促す。</p> <p>◇机間巡視をして、生活の仕方に特徴のある絵に着目できるよう言葉かけをする。</p> <p>◇選んだ時代によってロイロノートのカードの色を変えるよう伝える。 縄文時代：黄色、弥生時代：水色</p> <p>◇衣食住の観点から選んだ理由も書くようにさせる。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ</p>	<p>○どちらの時代で生活をしたいかをロイロノートに表す。</p> <p>○自分の考えを発表する。</p> <p>(衣)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弥生時代の方がきちんとした服になっている。 <p>(食)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弥生時代の方が安定して食べ物が食べられそう。 <p>(住)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弥生時代の方が立派な建物に住めそう。 <p>○次時の学習について知る。</p>	<p>◇どちらの時代に決め、なぜ選んだのかを全体で共有する。</p> <p>◇それぞれの時代の特徴的な生活の仕方をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>A：縄文時代と弥生時代の人々の生活の様子について考え、衣食住の観点から具体的に表現している。</p> <p>B：縄文時代と弥生時代の人々の生活の様子について考え、表現している。</p> <p style="text-align: right;">【思考・判断・表現】 (ロイロノート、発言)</p> </div> <p>◇米づくりによってどう生活が変化していくのかを想像させ、次時の学習への意欲をもたせられるようにする。</p>

情報収集

整理・分析

まとめ・表現

板書計画

縄文時代と弥生時代、どちらの時代で生活をしたいか考えよう。

<縄文時代>

- ・狩りや漁、採集
- ・縄文土器
- ・大型竪穴住居
- ・大型堀立柱建物
- ・盛り土

(児童全員分のロイロノート)

<弥生時代>

- ・米づくり
(田おこし、収穫、脱穀)
- ・青銅器
- ・立派な建物
楼閣、井戸、水路
- ・道具や布の製作
- ・祭り